

大分合同新聞

夕刊

創刊1886年(明治19年)
大分合同新聞社
〒870-8605 大分市府内町3-9-15
© 大分合同新聞社 2016
97-536-2121 別府 0977-22-2121
97-538-9674 FAX 0977-25-1230
朝夕刊 完全連続紙
売の朝刊、夕刊、統合版はありません。

Gate
プレミアムオンライ
ゲート

「注目まとめ」コーナー
でこれまでの「熊本・大分
地震」の記事も読めます。



あれから1カ月。県内最後の避難所が閉鎖。揺れ続ける大地。再開せずに済むことを願うばかり。真上では特に大きな揺れ。あらためて知る活断層地震の恐

抱く幻想



る映画

室生を思わせる老作家(大杉)と、金魚の化身の赤井赤子(階堂)の不思議な日常を、幽霊(真木よう子)や他界した芥川龍之介(高良健吾)らとの交流を交えてつづる。二階堂は高校生時代に原作を

中村七之助「新たな四谷怪談に」

コクーン歌舞伎、バレエの首藤康之も出演



た。当時 出身で世界的なバレエ団の舞台をサーの首藤康之(豊の国)に見ている ぼす特命大使、大分合同新聞文化賞受賞者)も出演す

映画「蜜のあわれ」(21日から大分市のシネマ5で上映。6月3日まで)は、室生犀星が晩年に著した幻想小説の映像化に異才、石井岳龍監督が挑んだ意欲作。二階堂ふみと大杉漣がダブル主演し、時空を自在に行き来する作品世界を彩っている。43歳差の初共演。「たくさんの引き出しを開けていただけだ」(階堂)、「出会いの大事さを改めて実感した」(大杉)と、爽り多い現場だったようだ。

「蜜のあわれ」の二階堂ふみ、大杉漣

芸能

一時、TAOの代表的な演出となった阿修羅あしゅら



TAOが描く日本の夢

NY公演を終えて

国内におけるTAOの興行の売り込みは、「和太鼓」の持つイメージが古くさいという固定概念があり、大など、大切な人がTAOの苦戦を強いられた。メディアもプロモーターも全く相手にしてくれない。それな

断ツアーを実施し、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡という7都市を巡った。正直のところ、売りの上げはとも厳しかったが、当時それよりも大事なことを、TAOの名を売るとのこと。各地で話題を呼び、全国放送の番組出演依頼へとつながった。九州から世界ツアーを経ての「逆輸入」そして、日本全国デビュー。そして、この「逆輸入」そして、日本全国デビュー。そして、日本全国デビュー。そして、日本全国デビュー。

国内におけるTAOの興行の売り込みは、「和太鼓」の持つイメージが古くさいという固定概念があり、大など、大切な人がTAOの苦戦を強いられた。メディアもプロモーターも全く相手にしてくれない。それな

「売り上げより名を売る」

縦断ツアー、話題呼ぶ

僕を含めてTAOの中には断ツアーを実施し、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡という7都市を巡った。正直のところ、売りの上げはとも厳しかったが、当時それよりも大事なことを、TAOの名を売るとのこと。各地で話題を呼び、全国放送の番組出演依頼へとつながった。九州から世界ツアーを経ての「逆輸入」そして、日本全国デビュー。そして、日本全国デビュー。そして、日本全国デビュー。

現代的な演出が特徴的でした。感動して泣いた「コクーン歌舞伎」の第15と振り返る。千秋楽で、別弾「四谷怪談」が東京・渋谷の舞台「上海バンスキング」のBunkamuraの出演者が登場。ジャズのアーティストで上演された演奏に合わせお岩役の父。中村扇雀演じるお岩の、と、伊右衛門役の中村橋之助、お袖役の中村七之助が、助が立ち回りを演じる大胆な演出が話題を呼んだ。七之助は「その衝撃を」超えるつもりでやらない

父の故中村勘三郎が22年前に立ち上げたコクーン歌にちしかできない四谷怪談舞伎。「東海道四谷怪談」が探せれば「誓っていた」。その幕開け作品でもあつた。「四谷怪談」には大分市出身で世界的なバレエ団の舞台をサーの首藤康之(豊の国)に見ている ぼす特命大使、大分合同新聞文化賞受賞者)も出演す